

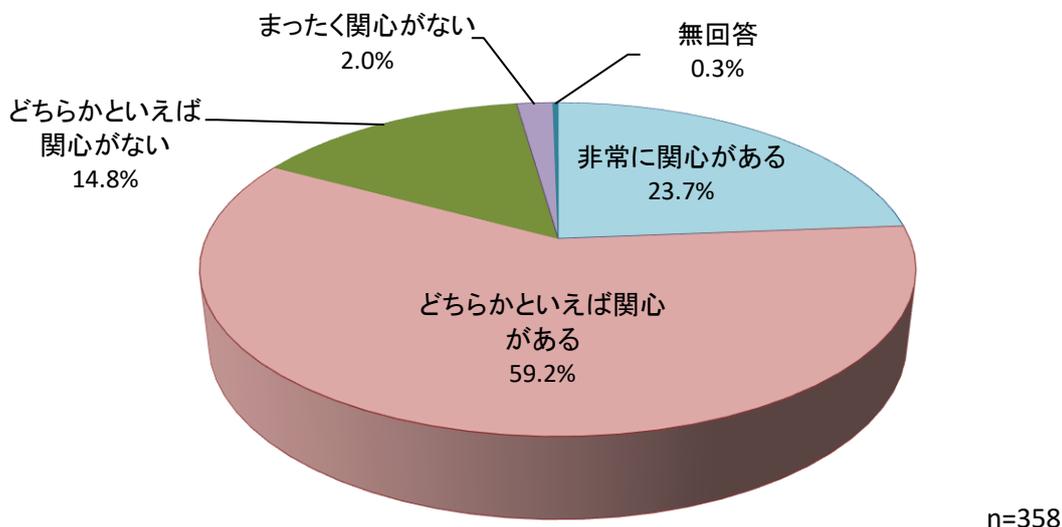
## 6. 生物多様性について

### (1) 自然環境について関心があるか

◇ 「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が8割強

問 2 3	自然環境について関心がありますか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常に関心がある	23.7%
2	どちらかといえば関心がある	59.2%
3	どちらかといえば関心がない	14.8%
4	まったく関心がない	2.0%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-1>全体



自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」が23.7%、「どちらかといえば関心がある」が59.2%で、これらを合わせた【関心がある（計）】は82.9%であった。一方「どちらかといえば関心がない」が14.8%、「まったく関心がない」が2.0%で、これらを合わせた【関心がない（計）】は16.8%であった。（図IV-6-1）

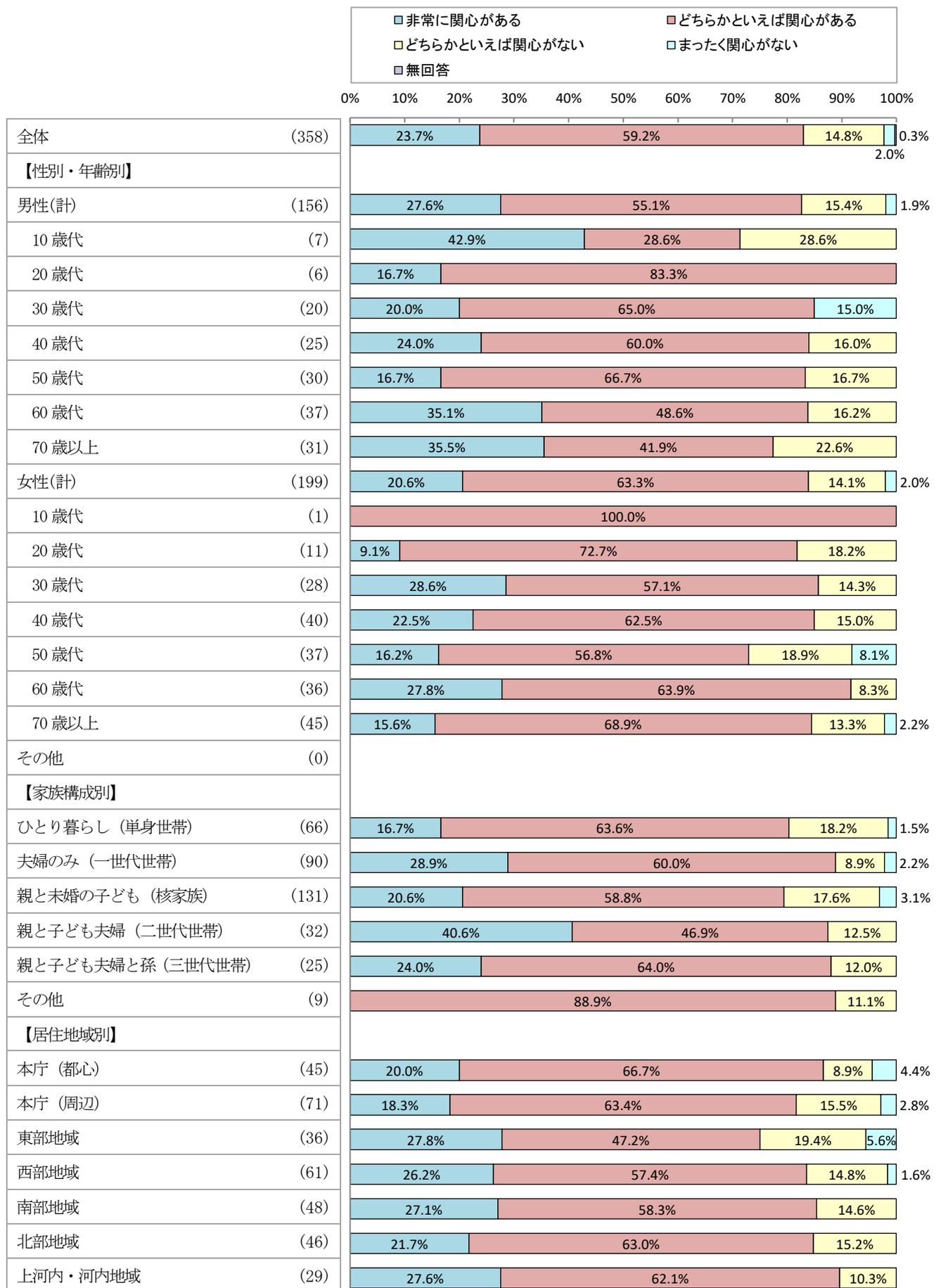
#### <参考>

性別・年齢別で見ると、【関心がある（計）】は<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が91.7%であった。一方、【関心がない（計）】は<男性/10歳代>が28.6%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が27.0%であった。（図IV-6-2）

家族構成別で見ると、【関心がある（計）】は<その他>を除くと<夫婦のみ（一世代世帯）>が88.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が88.0%であった。一方、【関心がない（計）】は<親と未婚の子ども（核家族）>が20.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が19.7%であった。（図IV-6-2）

居住地域別で見ると、【関心がある（計）】は<上河内・河内地域>が89.7%で最も高く、次いで<本庁（都心）>が86.7%であった。一方、【関心がない（計）】は<東部地域>が25.0%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が18.3%であった。（図IV-6-2）

<図IV-6-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

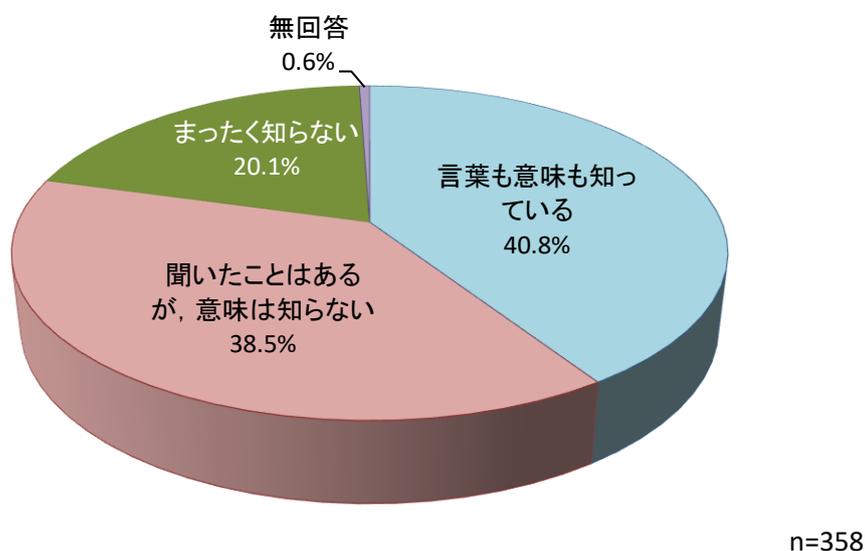


(2) 「生物多様性」の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が約4割

問24	「生物多様性」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	言葉も意味も知っている	40.8%
2	聞いたことはあるが、意味は知らない	38.5%
3	まったく知らない	20.1%
	(無回答)	0.6%

<図IV-6-3>全体



「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が40.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らない」が38.5%、「まったく知らない」が20.1%であった。(図IV-6-3)

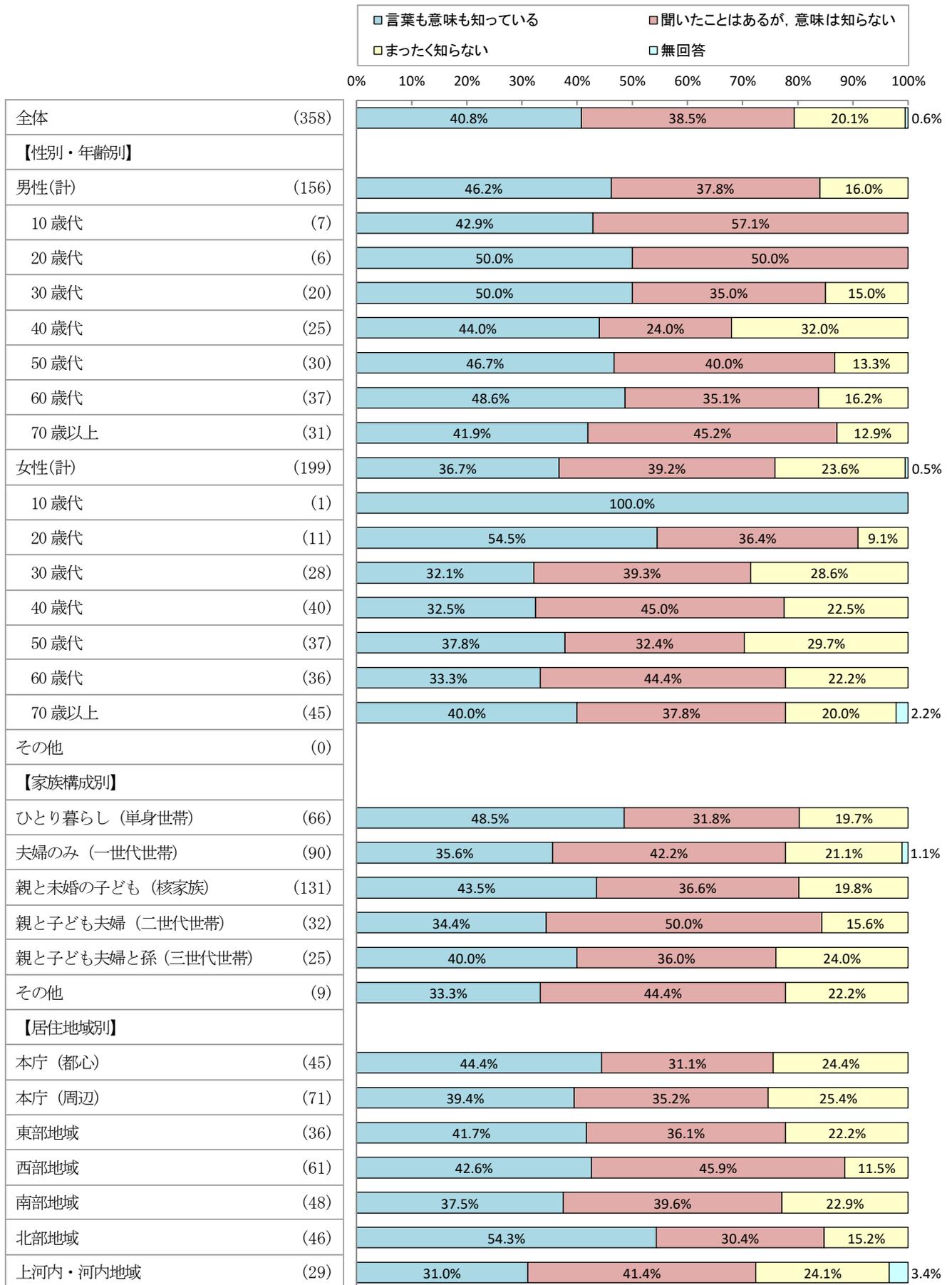
<参考>

性別・年齢別でみると、「言葉も意味も知っている」は<女性/10歳以上>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が54.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<男性/10歳代>が57.1%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が50.0%であった。(図IV-6-4)

家族構成別でみると、「言葉も意味も知っている」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が48.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が43.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が42.2%であった。(図IV-6-4)

居住地域別でみると、「言葉も意味も知っている」は<北部地域>が54.3%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が44.4%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<西部地域>が45.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が41.4%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

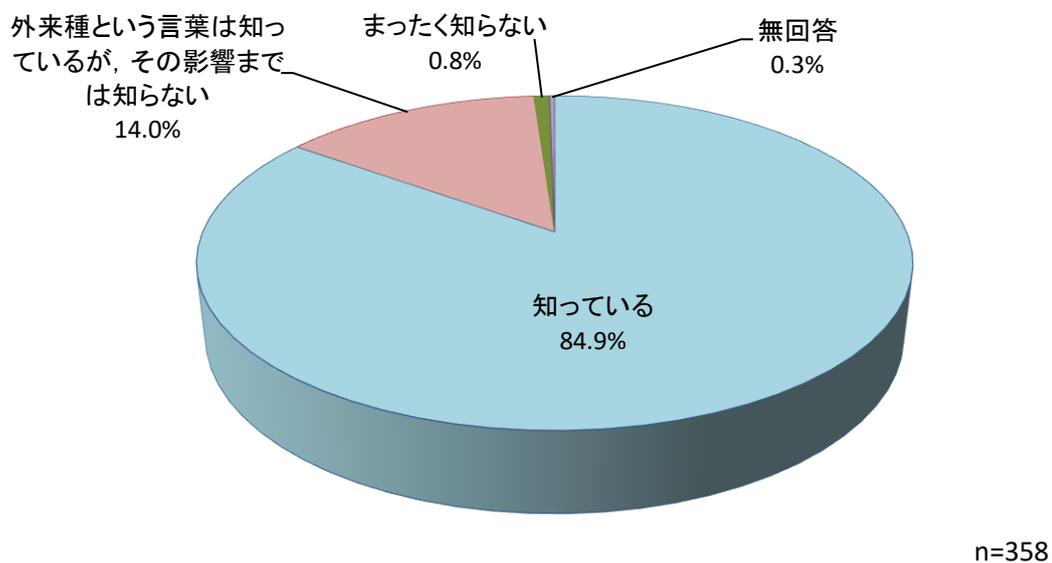


(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

◇ 「知っている」が8割半ば

問 2 5	外来種が及ぼす影響を知っていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	知っている	84.9%
2	外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない	14.0%
3	まったく知らない	0.8%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-5>全体



外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が84.9%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」が14.0%、「まったく知らない」が0.8%であった。(図IV-6-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<男性/10歳代>と<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が96.0%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<男性/30歳代>と<女性/30歳代>がいずれも25.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>と<女性/60歳代>がいずれも19.4%であった。(図IV-6-6)

家族構成別でみると、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が90.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が84.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が18.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>と<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>がいずれも16.0%であった。(図IV-6-6)

居住地域別でみると、「知っている」は<南部地域>が89.6%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が88.9%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<本庁(周辺)>が18.3%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が17.2%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

